

音更町総合計画審議会会議結果（要旨）

会議名	音更町総合計画審議会 社会福祉部会（第1回）
開催日時	平成27年7月1日（水） 午後6時から午後8時
開催場所	音更町役場2階 第1・第2委員会室
委員出席者	河田部会長、増中部会長代理、栗本委員、櫻井委員、正保委員、瀧上委員、中島委員、日向委員
事務局出席者	荒井町民生活部長、古田保健福祉部長、岸本町民課長、葛谷福祉課長、谷川保健センター事務長（兼地域包括支援センター事務長兼保健課長）、田村環境生活課長、石王木野支所長、重松高齢者福祉課長、傳法高齢者福祉課予防調整担当参事、堀田子ども福祉係長、渡辺企画課長、高田企画調整係主任
議題・諮問内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 部会長あいさつ 2 会議の進行等について 3 議件 <ol style="list-style-type: none"> (1) 基本計画の見直しについて 4 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・次回審議会の開催日程について
会議資料	基本計画修正案、施策評価調書
会議結果	下記のとおり
出された主な意見等	<p>■消費生活</p> <p>委員：施策（1）を機能の充実に変えているが、目標指標が機能となると、その機能が充実した結果、町民の満足度が高まったと読めるが、2つ目の相談件数の数字で機能が充実したという指標になり得るのか疑問がある。 また、相談件数のH32目標が150件となっているが、それは多分、施策の意識啓発がされて相談件数が少なくなると理解しているが、（2）の出前講座も、人数だけの評価で良いのか。</p> <p>事務局：人数や件数だけで評価するのは確かに難しいと感じている。相談件数が減るというのは、委員が言うように減る方向に持っていきたいというのが一つ。そのために施策（2）があるが、今は消費者協会に委託しており、今後は町も協力して、主に学校、小学校は少し早いかもしれないが、中学校・高校ぐらいから、今は携帯電話やスマホの関係もあって、こういう被害がありますということ、こちらからも積極的に投げかけていくのも一つと考えている。</p> <p>委員：（1）の機能の充実を町はどのように考えているのか。</p> <p>事務局：専門相談員の増員やスキルアップを通じ、消費生活センターとしての機能・能力を高めていきたいと思っている。</p> <p>■環境保全</p> <p>委員：施策（3）環境美化活動の促進①家庭で取り組めるエコ活動の推進に関する取組の状況がわかるものがあれば説明いただきたい。</p> <p>事務局：7月の広報紙で全世帯にエコに関するチラシを入れている。また、環境家計簿を各種イベントで配布し、ホームページにも載せている。 他の自治体を見ると、更に進んだ取組も各種あるが、やはりたくさんの方の町民の皆さんにそういった環境に対する意識を持って取り組んでいただくということで、今の取組を更により良いものに改善していく、あるいは、新たなものも検討していきたい。</p>

■ごみ・し尿収集処理

委員：ごみの分別が徹底されていない理由、背景を分析しているか。

事務局：毎年ごみカレンダーを配布とあわせて、詳細な手引書も配布している。苦情やごみ収集業者からの情報では、集合住宅、共同住宅、あるいは比較的出入りの多い施設については、どうしてもルールを守らない方が多い傾向にあるようだ。我々もそれが分かり次第現地に向かい追跡調査し、啓発のチラシを入れているのが現状。そうした方々の意識を向上させるべく粘り強い努力をこれからも繰り返していくしかないと思っている。

カラス対策では、袋の色を変える、あるいは、専門機関に様々な研究もお願いしているが、ごみ出しの時間を守ることで相当数カラスの被害を防ぐことができる、あるいは、袋を縛るだけのことをしないばかりにカラスに見つかってしまう事例もあり、色々な形で情報提供しながら町民の皆さんにお願い、理解していただく方法しかなく、可能な限り努力をしているところ。

■交通安全、防犯

委員：交通事故は、どの程度分析できているのか。例えば、時間帯や場所、単純に個人の運転技術や注意力不足ということが圧倒的に多いのかもしれないが、何か傾向はあるのか。

事務局：具体的な統計は持ち合わせていなが、音更町内に限らず全国的に高齢者に関する事故の率が上がっているのが現状。子どもからお年寄りまで色々な交通安全に関する取組を町としても支援していきたいと考えているが、時間帯や場所についての分析はしていない。

部会長：中学生、高校生に自転車に乗るマナーなどの啓発活動は行っているか。

事務局：小学校には毎年、各校で春先に、交通安全指導員等の協力を得ながら、歩行する際の注意事項や、自転車の乗り方を啓発する機会を設けている。保育所、幼稚園についても、こぐまクラブで活動を行っている。中学生、高校生については、各校に行って啓発活動を行っていないのが現状。登校時に、交通安全指導員や児童交通安全指導員の方から、不適切な乗り方を残念ながら見かけるといった話も時々聞く。

6月から法律が変わり、自転車に対する罰則規定も施行されている。子ども達だけでなく、お年寄りも、中学生、高校生に対しても、何らかの形でこういった啓発指導をする機会を徹底していかなければならないと思っており、検討させていただきたい。

■火葬場、霊園

委員：霊園のキャパシティはどれくらいか。

事務局：現在は、3,085区画で、まだ百数十区画ある。何年かに分けて拡張工事をしており、用地は確保しているが、まだ造成していないスペースもあるので、相当年数は不足になることは無いと考えている。

部会長：「墓じまい」がテレビで取り上げられるようになってきているが。

事務局：ある自治体では共同墓地を取り入れたところもある。音更町でもそのような要望がいくつか聞こえているところであるが、行政で造るとなると、宗教的な制約などもあることから、先進地の研究をしていきたいと思う。

■保健

委員：母子保健の目標指標に妊婦健診が入っていない理由は。

事務局：妊婦健診は病院で受診していただいております、100パーセントに近い数字で受診されているということで、目標としては設定していない。

委員：町として妊婦さんに対する教室も開かれていると思うが、事業として載せなくてよいのか。

事務局：パパ・ママ教室については、「男女共同参画」の分野に載せている。

委員：健康寿命の延伸を図るということで文言を修正している。疾病構造の変化等色々あると思うが、音更町で亡くなる方たちがどういう傾向なのか、他の市町村や全道、全国と比較してどうなのかという分析はあるか。
また、健康づくりの教室の指標が挙がってこないのか。

事務局：死亡原因等については、全ての数字は押さえていないが、国保事業の数値で言うと、心臓病があるとか、がんの傾向が平均より高いという数値はおさえている。
また、町としては色々な形で健康づくりに対する出前講座等はやっていきたいと思っているが、具体的に目標数値とするのは難しいと思っている。

■医療

委員：現状と課題の「医療機関相互の連携」というのは具体的なイメージとしてどのようなことを指しているのか。

事務局：医療機関と町との連携については、予防接種、健診等での連携を継続したいと思っている。医療機関同士の連携については、年に何回か町を含めて懇談会を開いており、情報交換をする中で連携を図っているという状況。

委員：目標指標（1）で中間数値が下がっているが、何か理由はないのか。

事務局：医療環境については、歯科医院が1か所増えているし、病院は現状維持であるにも関わらず下がる原因があるというのは今後の課題だと思っている。

委員：現状が変わっていない中で、例えば通院する手段に不便さを感じるなどの課題も含まれているのかと思気になった。

事務局：次回までに整理し、分かれば報告する。

■社会保障

委員：大谷短大の介護福祉関係の育成支援事業に取り組んでいるということで、とても良い取組だと思うが、この学生が地元で就職をされるような推進事業だとか、そのための規約だとか、町税を使ってサポートしている以上、町民に還元されるような活用が望ましいと思うが、何かそのような規約等はあるのか。

事務局：去年からふるさと納税の特典の制度を設けたところ、全国の皆さんから当初の予定をはるかに超える寄附が集まったということで、町としては寄附をしていただいた全国の皆さんのお気持ちに応えるということで、福祉の人材の育成を考えた際に、短大の介護の学生が今減少傾向にあることもあり、計画した。実際に短大にいる学生さんが全て音更町内の施設に入るのは無理があるので、今回、要綱では音更をはじめ十勝管内に就職していただければ、十勝圏としても介護が重要な問題なので、その先駆けとして、音更が自らやるという考え方である。

委員：とても良い制度だと思っている。同じ福祉職でも子ども福祉専攻の生徒はや

っぱり人数がとても多く、定員を越すような入学希望者もいるが、介護福祉士はなりたいたいと思う人も少ない。マイナスイメージが強いのではと思う。音更町ではこれから仕事を知らない人たちに対してのイメージアップや、子どもたちに介護職を知ってもらうための制度があるのか。

事務局：十勝総合振興局と管内の全部の市町村が集まって、そういったイメージの払しょくに向けて動いており、その動きに合わせた対応をしている。

委員：レセプトが今は電子化されて、データが分析しやすくなったと思うが、レセプトから重度化を予防するような対策が見えてくるとか、そういうところで何か考えがあるかお聞きしたい。
また、何割の方が国保に加入しているのか。

事務局：レセプトのデータの分析については、現在、国保事業に関し、レセプトや特定健康診査のデータをもとに、どこが多いのか、どういう傾向にあるのかということ調べて、データヘルス計画を策定中。まだ途中段階でお知らせする段階にはないが、このデータをもとに、これから町としてどこを強化していかなければならないのか、力を入れていかなければならないのかという計画を進めている。

国保の加入率については、平成 26 年度の数字では、世帯数で約 33 パーセントの世帯が加入している。国保は世帯で加入するので、被保険者で言うと、人口に対して約 26 パーセントの方が国民健康保険の被保険者で、これについては、平成 20 年度に後期高齢者医療制度ができたあとも年々減少傾向にある。後期高齢者医療制度に移行する人よりも、新たに国保に加入する人が少ないということで、どこの市町村も年々減少傾向にあるのが実態。

委員：後期高齢者は何パーセントぐらいか。

部会長：今資料を持っていないということなので、次回回答とさせていただきます。

委員：介護福祉関係の育成支援事業はふるさと納税を財源にしているということだが、何年ぐらい続けていく計画か。

事務局：町の補助制度は、これに限らず、一般的に 3 年で見直すか、担当としては継続に向けて、方法、学生数、就職率等を整理し、財政部門と協議しながら進めていきたいと思っている。

委員：ふるさと納税が 1 億円ぐらい集まったという話があるが、どれぐらいの金額がこの事業に使われるのか。

事務局：去年実際に町に集まった寄附金は 1 億 8 千万円。寄附をいただいた方に謝礼品として半分ぐらいの経費がかかるほか、諸経費がかかるので、大体全体の 4 割位が町に残り、それを寄附していただいた皆さんの意向に従って、事業に充てている。今年の予算としては全体で 1 千万持っている。

委員：介護士は音更町ですごく少ない状況なのか。

事務局：介護士が足りないのは全国的な話。町としては、学生の定員に対する推移を見ている。まずは短大に定員いっぱいに入ってもらって、その方々に十勝管内で働いていただきたいと考えている。民間施設で何人が定員で何人足りないかまではおさえていない。

※次回専門部会開催日時を 7 月 24 日（金）午後 6 時からとした。